

# 2部

フィールド フィールド  
現場から現場へ

---

# 多職種多機関連携支援に携わる 1人の社会福祉士として

OB MESSAGE

通信教育部社会福祉学科卒業生 石川 史也

## はじめに

東北福祉大学 通信教育部で資格取得に向けて励まれている学生の皆様におかれましては、通常の業務に加えレポート提出や実習・演習等の課題に取り組み、とても忙しい毎日をお過ごしのことと思います。

2019年12月7日～8日に行われました社会福祉士実習指導者講習会への参加を機に通信教育部の方から『With』への寄稿依頼をいただき、このような形で皆様と接点を持たせていただいたことに感謝申し上げます。

私は、2013年4月に3年次編入で本学通信教育部に入学し、2015年3月に卒業、2016年3月に社会福祉士試験に合格し現在に至ります。資格取得のきっかけは、前職の岩手県社会福祉協議会在職中、県内市町村社協の方々と一緒に地域福祉を進めようとした際、地域福祉推進の実践経験に乏しく自身の能力・知識・技術不足を感じたからです。

これから、僭越ながら私自身の仕事の紹介や通信教育部在籍中の思い出等を紹介させていただきますが、この寄稿が資格取得に励まれている皆様の今後の学習や、資格取得後の支援の一助になれば幸いです。

## 現在の仕事

私が在籍している宮城県社会福祉協議会は、法人事務局と宮城県指定管理者施設（①障害者支援施設 宮城県船形コロニー ②県北地域福祉サービスセンター ③仙台北地域福祉サービスセンター ④県中央地域福祉サービスセンター ⑤介護研修施設 宮城県介護研修センター）、設置施

設（①なごみなの里地域福祉サービスセンター ②仙台西地域福祉サービスセンター）及び苦情解決機関から構成される大きな法人です。他県の県社協と異なる点として、2005年に宮城県社協・宮城県福祉事業団・宮城いきいき財団が統合しており、本来の県社協の役割である市町村社協の連絡調整や研修等の広域的支援に加え、社会福祉施設を受託経営する社会福祉事業団としての特色を併せ持つ全国的に見ても珍しい法人といえます。

私は2018年3月に本会へ入職し、①障害者支援施設 宮城県船形コロニーで、生活支援ワーカーとして勤務し2年目を迎えております。本施設は3つの入所施設と2つの関連施設から構成され、約200人の障害者が利用しています。私は3つの入所施設の内の一つ、とがくら園の入所支援課第一係で21人の利用者の生活支援や家族・他機関との連絡調整を主に行っています。担当利用者は3人で年に2回の個別支援計画の作成や日々のケース記録を作成しています。一係の利用者は重度の知的障害と様々な身体障害を持っており、寝たきり・車いすの生活で医療的ケアを必要とする利用者が多く、コミュニケーション・意思の確認が困難であることが特徴で、職員は利用者の気持ちに寄り添いながら、利用者のニーズに沿うよう権利擁護・意思決定・生活の支援を行っております。

## 前職について

---

2009年10月から2018年2月までは、社会福祉法人 岩手県社会福祉協議会で、低所得者への貸付・償還を通じて世帯構成支援を行う生活福祉資金の相談員、東日本大震災の被災者支援を行う生活支援相談員として従事し、市町村社協や行政・NPO・民生委員や地域住民の方々とともに、誰もが住み慣れた地域で生活を送れる地域づくりのお手伝いをさせていただいておりました。

生活福祉資金相談員のときは、資金の貸付時や償還時において、多重債

務や就労等の生活基盤の不安を抱えていたり償還の遅れがちな世帯に対して、家計改善のための寄り添い支援や生活困窮者自立支援員と連携支援、支援に携わる多機関の合同相談会で連携した相談対応を行いました。

また、生活支援相談員のときは、岩手県内の19市町村社協に配置されている生活支援相談員の資質向上のため、市町村社協配置の生活支援相談員各々の相談事例を県内で共有するため事例検討会を実施し、配置当初から支援方法に専門的な裏付けを与えてくださっていた大学の先生を招き、経験のみに重点を置き過ぎて自己流の価値観や支援に偏ってしまわないよう、支援の振り返りや助言をいただく機会をつくるよう努めておりました。

## 通信教育部での学習と社会福祉実習

---

私は2013年4月から2年間在籍し、実習は2014年の7～8月にかけて約1カ月間、岩手県盛岡市の社会福祉法人 岩手和敬会 特別養護老人ホーム 青山和敬荘様でお世話になりました。

実習中は特別養護老人ホームに加え、短期入所・デイサービス・居宅介護・地域包括支援センター・配食サービス・訪問入浴サービスの支援過程を実際に拝見し、利用者の個人情報に触れながら個別支援計画の作成や利用者・利用者家族との面接への同席、地域包括支援センターで地域の高齢独居世帯宅への訪問同席を通して、施設空間における利用者の問題解決に主眼を置いた相談援助と、相談訪問型の家族・集団・地域に主眼を置いた相談援助実習をさせていただきました。

実習中は日々の記録と整理に追われ、睡眠時間も十分にとれず苦労した中でも、見たこと・触れたことのない新たな経験に胸が躍り、実習指導担当の方や施設長、日々関わる職員の方々から伺える生の声全てが自分の糧となっていることが実感できる、貴重な1か月だったと思ひ出されます。

看取りに関連する家族や医療機関との一体化した支援の過程、利用者の本当の意思決定とは何か、人間は生まれてから死ぬまで成長し続けるという、利用者の可能性を信じ熱い想いをもちながら利用者に寄り添い支援を展開する実際を学ばせていただいたと感じます。

また、在学期間中の単位修得については、教員の方々からテキストの学習以外の視点や気づきを与えていただき、一人でテキストや参考図書を見ながら進める学習より理解が深まると感じていたため、できる限りスクーリングへの参加を心がけておりました。そして、スクーリングの際に知り合った仲間とは資格取得後も連絡を取り合っている方もおり、良き相談相手として、貴重な社会資源として関わり合いを継続させていただいております。

## 多職種多機関連携支援の展開と大切なこと

現在、困りごとや課題を抱える相談者の方々は非常に複雑に絡み合った課題を抱えており、課題解決まで1つの機関で完結することは非常に困難かと考えられます。相談に「来る」時点で課題の半分は解決していると考えても過言ではないかもしれません。地域には相談に来たくても来られない方、自分が何に困っているか分からず困っている方、本当に自分の味方になってくれるのか毎回試し見極めている方など、非常に多様だと感じます。

こうした情勢の中、社会福祉士1人で支援を展開するには限界があり、様々な情報を手繰り寄せながら支援を展開していかなければならず、社会福祉士が持っている社会資源の数はその社会福祉士の展開可能な支援数に直結するため、私達は絶えず地域に精通し有効な社会資源を熟知し、社会資源開発に励む姿勢が欠かせない職種に身を置いているのではないのでしょうか。社会福祉士は、相談者と出会った時点で相手の将来を左右してしま

う強い影響力をもっています。展開可能な支援の多様性が相談者の歩む道の選択の幅を広げ、豊かな自己決定支援へとつながります。

だからこそ、地域の民生委員やご近所の世話焼きさんから地域の困っている人の情報を手練り寄せておく、地域に眠る元保健師さん等の専門職や周囲の人を気にかけてくれそうな近隣住民さん等の資源を把握しておく、行政職員やMSW・他の相談機関の相談員など、繋げる人を創っておくことは多職種多機関連携支援にとって重要なことと考えられ、通信教育の学習で出会った仲間もいずれは貴重な社会資源のひとつとなると見据え、出合いを大事にされると良いかと思います。

それでは、末筆ではございますが、皆様が試験に合格され、社会福祉士として輝かれる未来をご祈念し、激励の言葉と代えさせていただきます。頑張ってください。